

## 県職員と連携した民有林支援の取組 ～上北地方林業振興協議会「森林・林業勉強会」の実施を通して～

三八上北森林管理署	発表者	主事	坂本 菜々
	発表者・チームリーダー	森林整備官	村井 秀成
	チーム員	一般職員	松村 海斗
	アドバイザー	森林技術指導官	伊藤 研吾

### 1 はじめに

民有林において森林経営管理制度等による森林整備の取組が進められている中で、国有林は「国有林野の管理経営に関する基本計画」の中でその組織・技術力等を活用して民有林を支援し、森林・林業施策全体の推進に貢献することとしています。

当署ではこれまでも「採材検討会」において、苗木運搬用の大型ドローンや人検知 AI カメラなど先進的な林業技術に関する情報提供を通して林業事業者の育成支援に取り組んできました。その開催にあたって管内市町村にも参加を呼び掛けてきましたが、必ずしも市町村職員のニーズに合っているとは言えず市町村職員の参加は少数にとどまっていました。

そこで市町村林務担当職員の現状と、情報提供・技術支援に関するニーズを把握するため令和7年3月、三八上北森林管理署管内の16市町村にアンケート調査を行いました。それによると管内市町村の林務担当職員の現状として、半数以上が20代～30代であり、人数は半数の市町村が1名、約7割が2名以下であることがわかりました。また「森林・林業に関する知識・技術等に関する情報は得られているか」との問いに対しては、得られていると回答したのは25%にとどまり、十分に得られているとは言い難い現状にあることがわかりました。

また当アンケートで情報提供・技術支援に関する要望を質問したところ、要望が多かった分野は市町村の林務担当の主要な業務となっている「森林経営管理制度」や「森林経営計画」、「市町村森林整備計画」でした。それに加え「病虫害対策」や「ナラ枯れ調査」について半数以上の市町村から要望がありました。これは令和6年に当署管内で初めてナラ枯れ被害が発生した影響と想われます。また林業の基礎的知識である「樹木の見分け方」や「森林資源調査」等にも半数以上から要望がありました(図1)。これらのアンケート結果を踏まえて、市町村支援の取組について検討することにしました。

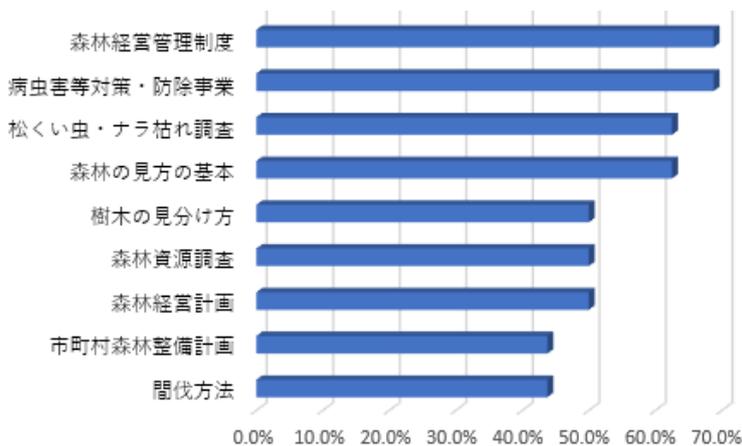


図1 情報提供・技術支援に関する要望が多かった分野 (複数回答可)

## 様式2

市町村支援の取組を進めるにあたっては、実施体制や実施内容が効率的かつ効果的なものになるよう青森県の出先機関（上北農林水産事務所）の林務担当職員と事前に打合せを行いました（写真1）。

実施内容は、市町村職員が行う業務に役立つよう現在対応が急務な「ナラ枯れ被害対策」をメインテーマとしつつ、基礎的知識習得を目的として「樹木の見分け方」などを盛り込みました。また対象範囲については、三八上北森林管理署管内のうち「上北地方」の市町村を対象としました（図2）。実施体制は、国や県、市町村、森林組合で組織している「上北地方林業振興協議会」の主催行事として実施することとしました。これにより新たな体制の立ち上げが不要で、開催案内等の事務作業を協議会にお願いでき、我々国有林は現場の準備に専念することができました。また協議会の主催行事とすることで、その構成員である市町村職員の多くの出席も期待しました。



写真1 青森県出先機関との打合せ状況



図2 上北地方の位置

## 2 取組の方法

今回の取組の名称は「森林・林業勉強会」とし、令和7年10月に実施しました。実施場所は、ナラ枯れ被害木と伐倒くん蒸処理状況が同時に観察できる、横浜町の国有林としました。勉強会参加者は、青森県上北地方9市町村の内7市町村から12名の林務担当職員のほか、森林組合等民有林関係者7名、青森県職員3名、国有林職員10名、合計32名でした。

勉強会では以下の5項目について講義・実習を実施しました。

### (1) ナラ枯れ被害の概要と被害木の状況観察 【青森県上北農林水産事務所担当】

青森県上北農林水産事務所の担当者が、ナラ枯れ被害の概要と青森県内の被害発生状況について説明しました。その後、今年枯死したナラ枯れ被害木において枯葉の色やフラスなどを観察しました。また、鳥取県林業試験場の「カシナガスケール」を被害木の穿入孔に当てて観察を行いました（写真2）。

### (2) ナラ枯れ被害木の伐倒くん蒸処理の説明 【三八上北森林管理署担当】

森林管理署職員が、令和7年5月に実施したナラ枯れ被害木防除事業の説明を行い、実際に伐倒くん蒸処理された丸太を観察しました。また当該防除事業を実施した森林組合の担当者から、現場作業で苦労した点について解説していただきました（写真3）。



写真 2 ナラ枯れ被害の概要と被害木の状況観察



写真 3 ナラ枯れ被害木の伐倒くん蒸処理の説明、観察

(3) 森林資源調査実習を兼ねたナラ枯れ被害木調査の実習【三八上北森林管理署担当】  
ナラ枯れ被害木の調査実習として輪尺を使用して胸高直径を、測竿を使用して樹高を測定しました。参加した市町村職員は輪尺や測竿を使用するのが初めての人が多かったことから、被害木のナラだけでなく、スギやほかの広葉樹も測定し森林資源調査実習を兼ねた内容としました（写真4）。

(4) 樹木の見分け方実習 【三八上北森林管理署担当】  
市町村森林整備計画をはじめとした森林・林業行政に関する基礎的知識習得のため、樹木の見分け方実習を行いました。ナラ枯れ調査に重要となるナラ類と、地域の代表的な広葉樹・針葉樹の見分け方について解説し、実物の葉っぱのサンプルを用い類似樹種の詳細な違いを観察しました（写真5）。

(5) UAVによる上空からの被害木探査 【三八上北森林管理署担当】  
UAVを使用した効率的なナラ枯れの被害調査方法を説明しました。あらかじめ当該箇所からUAVを飛行させ上空で360度回りながら撮影し、その撮影画像からパノラマ画像を作成しました。そのパノラマ画像を用いてナラ枯れ被害木の位置を特定する方法を提案しました（写真6、7）。

様式2



写真4 輪尺、測竿を使用した森林資源調査実習



写真5 樹木の見分け方の実習



写真6 UAVによる上空からの被害木探査の説明、UAV飛行の様子



写真7 UAVを飛行させ作成したパノラマ画像

### 3 結果

勉強会実施後、参加者にアンケートを実施しました。

今回の勉強会参加者は、市町村職員においては20～30代と若く、林務経験年数の短い職員が中心でした。内容に関しては、市町村と森林組合の職員全員から「自身の業務に役に立つ」と回答が得られました。

参加者からはその他の意見として「現場での作業を踏まえた内容で有意義な勉強会だった」「今後もこのような勉強会があれば積極的に参加したい」「定期的に林業事業体と市町村職員が集まる研修会を開催してほしい」といった意見が寄せられました。

加えて、今回の勉強会の「ふりかえり」を署内の職員間で行いました。アンケート結果を共有し、勉強会の企画・運営について改善策を話し合いました。職員からは「今後の実施内容として“国有林の伐採や造林の現場見学”“3Dレーザースキャナを使用した森林資源調査の実習”が良い」などの意見があがりました。

アンケート集計結果と署内のふりかえりを踏まえ再度、青森県上北農林水産事務所の職員と意見交換を行いました。「今回のような勉強会は、県と市町村、市町村職員同士の関係構築においても有意義である」「実施時期は新任職員のために5月ごろの実施が望ましい」などの意見があがり、協議会の予算を見学用バスの借りに活用することも情報提供していただきました。また今後の勉強会の内容として「初めて林務を担当する市町村職員のため、林業・木材産業について苗木生産から造林、伐採、木材加工までの一連の流れを見学するような勉強会があると良い」との意見もありました。

今回のアンケートや署内でのふりかえり、県担当者との意見交換を踏まえて、来年度の勉強会では青森県が整備する「採種園」や地域の「苗木生産施設」、国有林の「森林整備事業の作業現場」、協議会の構成員である森林組合の「木材加工施設」などの見学を計画したいと考えています(写真8)。県と国の職員の人事異動等も考慮し、令和8年3月ごろまでに時期と内容を決定しようという認識で一致しそれに向け取り組んでいくこととしています。



写真8 苗木生産施設、国有林の森林整備の作業現場、木材加工施設

#### 4 考察

国有林による市町村林務担当職員を対象とした民有林支援が求められる中、今回のような勉強会の実施は、市町村の技術力向上のため有効であると考えます。今回の取組を実践するうえで、重要であると感じたポイントは以下のとおりです。

##### (1) 市町村職員のニーズの把握

現状や技術支援に関するニーズを事前に把握し、それに対応した取り組みを行うことが、民有林支援を行う上でとても重要です。ニーズを把握する方法としては、今回のようなアンケート調査のほか、各種会議等の場での県や市町村職員との意見交換などがあげられます。

##### (2) 国有林の事業現場の活用

伐採や造林など国有林の事業現場を活用することが技術支援を行う上で効率的かつ効果的です。国有林の森林整備事業の作業現場は、民有林に比べフィールド提供に関する調整を比較的容易に行うことができます。

##### (3) 県と国有林の特性を活かした連携

県と国有林のそれぞれの特性を活かした連携も重要です。県は、市町村と近い関係性で市町村職員の業務を熟知しており、市町村職員が必要としている知識や技術を把握しています。一方国有林は、事業主体として森林施業等の実務経験があり、森林整備や病虫害対策事業の発注業務や管理業務を熟知しています。これら県と国有林それぞれの特性を活かして連携することが、効率的かつ効果的な民有林支援を行う上で重要であると感じました。

今後においてもこれらのポイントに重点を置き、民有林支援に積極的に取り組んでいきたいと考えています。